

科目名	基礎看護学特講		
科目責任者	鶴田恵子		
単位数他	2 単位数（30 時間） 春semester		
科目の位置付	2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる		
科目概要	自己の研究疑問を明確にするために、関連する理論や文献の抄読を通して、関心のある看護現象への理解を深める。同時に研究方法に関する理解を深める。		
到達目標	1. 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択する。 2. 文献検討を行い、現象理解を深めることができる。 3. 現象の理解に基づき、研究疑問を明確にすることができる。		
授業計画	<授業内容・テーマ等>		
	<担当教員名>		
	第 1 回	研究課題の検討 1 理論的文脈での研究問題の位置づけ	鶴田恵子、安田智洋、 佐久間佐織
	第 2 回	研究課題の検討 2 関心のある看護現象に関する文献検索	鶴田恵子、安田智洋、 佐久間佐織
	第 3 回	研究課題の検討 3 関心のある看護現象に即した理論や文献の発表、 	

学修方法	学生の問題意識にそって文献検討を行う。理論や文献の検討を通して、研究課題を明確にし、看護の諸現象について考察を深めることができるよう、自己学習を十分に行う。さらに、自己の考えを十分に表現し、整理できるように、主体的に討議等を進める。
評価方法	授業への参加度 30%、プレゼンテーション内容と方法 30%、レポート課題 40%、計 100%
課題に対するフィードバック	課題のフィードバックは面接で行う。
指定図書	なし
参考書	初回の授業時間に提示する。
事前・事後学修	自己の関心に照らして、関連文献を選択できるよう文献のクリティークをしてください。
オフィスアワー	鶴田恵子：1617 研究室 （時間については初回授業時に提示します。） 【連絡先】 keiko-t@seirei.ac.jp 安田 智洋： 1206 研究室 時間については初回授業時に提示します) 【連絡先】 tomohiro-y@seirei.ac.jp 佐久間佐織：1614 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp

科目名	基礎看護学特講演習														
科目責任者	鶴田恵子														
単位数他	1 単位（30 時間） 秋セメスター														
科目の位置付	3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、新たな知を創造することができる。														
科目概要	基礎看護学領域における研究課題について、文献での検討と討論を行う。さらに、基礎看護学領域における課題と研究方法について、文献検討を行い、討論で理解を深め、実際の活動に参加し研究課題の探索を行う。														
到達目標	1. 基礎看護学領域における諸現象が分析できる。 2. 基礎看護学領域の諸現象に関する論文のクリティークができる。 3. データ収集方法および分析技術を検討することができる。 4. 基礎看護学領域のフィールドに出て、研究課題の探求を行うことができる。														
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th><th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回 : 文献クリティーク</td><td>鶴田恵子、佐久間佐織</td></tr> <tr> <td>第 2～4 回 : 文献検討 基礎看護学領域における諸現象に ついての分析</td><td>安田智洋、佐久間佐織</td></tr> <tr> <td>第 5～10 回 : フィールドワーク</td><td>鶴田恵子、佐久間佐織</td></tr> <tr> <td>第 11～12 回 : フィールドワークのデータ分析経過の 発表と討議</td><td>鶴田恵子、佐久間佐織、安田智洋</td></tr> <tr> <td>第 13～14 回 : 分析結果の発表と討議</td><td>鶴田恵子、佐久間佐織、安田智洋</td></tr> <tr> <td>第 15 回 : フィールドワークと成果発表</td><td>鶴田恵子、佐久間佐織、安田智洋</td></tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回 : 文献クリティーク	鶴田恵子、佐久間佐織	第 2～4 回 : 文献検討 基礎看護学領域における諸現象に ついての分析	安田智洋、佐久間佐織	第 5～10 回 : フィールドワーク	鶴田恵子、佐久間佐織	第 11～12 回 : フィールドワークのデータ分析経過の 発表と討議	鶴田恵子、佐久間佐織、安田智洋	第 13～14 回 : 分析結果の発表と討議	鶴田恵子、佐久間佐織、安田智洋	第 15 回 : フィールドワークと成果発表	鶴田恵子、佐久間佐織、安田智洋
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞														
第 1 回 : 文献クリティーク	鶴田恵子、佐久間佐織														
第 2～4 回 : 文献検討 基礎看護学領域における諸現象に ついての分析	安田智洋、佐久間佐織														
第 5～10 回 : フィールドワーク	鶴田恵子、佐久間佐織														
第 11～12 回 : フィールドワークのデータ分析経過の 発表と討議	鶴田恵子、佐久間佐織、安田智洋														
第 13～14 回 : 分析結果の発表と討議	鶴田恵子、佐久間佐織、安田智洋														
第 15 回 : フィールドワークと成果発表	鶴田恵子、佐久間佐織、安田智洋														

学修方法	講義、プレゼンテーション、フィールドワーク
評価方法	演習計画 20%、フィールドワークへの参加状況 40%、実践報告レポート 40%、計 100%
課題に対するフィードバック	面接及びレポートにコメントを記載して返却
指定図書	なし
参考書	授業中に紹介します
事前・事後学修	文献のクリティークでは、抄録論文について十分な読み込みをして授業に臨んでください。
オフィスアワー	鶴田恵子：1617 研究室 （時間については初回授業時に提示します。） 【連絡先】 keiko-t@seirei.ac.jp 安田 智洋：1206 研究室 時間については初回授業時に提示します) 【連絡先】 tomohiro-y@seirei.ac.jp 佐久間佐織：1614 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp

科目名	看護管理学特講
科目責任者	鶴田恵子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる。
科目概要	国内外の看護管理学領域の諸概念をレビューするとともに、看護管理学領域における研究の動向や課題を探究し、研究方法論を探究する。
到達目標	看護管理学研究の動向及び方法について熟知するとともに、自らの研究疑問を深めることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：看護管理に関する理論・概念（1） Nursing Management、Nursing Organization 第3回：看護管理に関する理論・概念（2） Delivering Nursing Care, Managing and Improving Quality 第4回：看護管理に関する理論・概念（3） Delegating Successfully, Building and Managing Teams 第5回：看護管理に関する理論・概念（4） Motivating and developing Staff, Evaluating Staff Performance 第6回：看護管理学領域の論文のクリテーク（理論・概念(1)） 第7回：看護管理学領域の論文のクリテーク（理論・概念(2)） 第8回：看護管理学領域の論文のクリテーク（理論・概念(3)） 第9回：看護管理学領域の論文のクリテーク（理論・概念(4)） 第10回：看護管理学領域の論文の文献レビュー（1）マトリックス作成 第11回：看護管理学領域の文献レビュー（2）マトリックス洗練 第12回：看護管理学領域の文献レビュー（3）分析結果 第13回：看護管理学領域の研究課題:知識のギャップの明確化 第14回：看護管理学領域の研究手法；傾向 第15回：まとめ

学修方法	文献のテーマは、学生と相談の上、決定する。
評価方法	討論への参加度（40％）、課題レポート（60％）
課題に対するフィードバック	課題のフィードバックは面接及びレポートにコメントを記載して返却する。
指定図書	なし
参考書	必要に応じて、紹介します。
事前・事後学修	事前にテーマを提示しますので、そのテーマについてレポートを準備し、プレゼンテーションに臨んでください。
オフィスアワー	鶴田研究室は、1617 です。 時間については、初回の授業時に提示します。

科目名	看護管理学特講演習
科目責任者	鶴田恵子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、新たな知を創造することができる。
科目概要	看護管理学領域における研究課題について、文献での検討と討論を行う。さらに、看護管理学領域における課題と研究方法について、文献検討を行い、討論で理解を深め、実際の活動に参加し研究課題の探索を行う。
到達目標	1. 看護管理学領域における諸現象が分析できる。 2. 看護管理学領域の諸現象に関する論文のクリティークができる。 3. データ収集方法および分析技術を検討することができる。 4. 看護管理学領域のフィールドに出て、研究課題の探求を行うことができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：文献のクリティークについて 第2～4回：看護管理学領域における諸現象について分析するために文献検討を行う。 第5～10回：フィールドワーク 第11～12回：フィールドワークのデータ分析経過の発表と討議 第13～14回：分析結果の発表と討議 第15回：フィールドワークと成果発表

学修方法	講義、プレゼンテーション、フィールドワーク
評価方法	演習計画（20％）、フィールドワークへの参加状況（40％）、実践報告レポート（40％）
課題に対するフィードバック	面接及びレポートにコメントを記載して返却
指定図書	なし
参考書	授業中に紹介します
事前・事後学修	文献のクリティークでは、論文について十分な読み込みをして授業に臨んでください。
オフィスアワー	鶴田研究室は、1617 です。 時間については、初回授業時に提示します。

科目名	地域看護学特講
科目責任者	川村 佐和子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得して問題解決を図ることができる。
科目概要	地域看護学、公衆衛生看護学、在宅看護学に基づいた研究を行うために、先行研究や書籍、資料を読解し、院生が抱く課題を広い視野で俯瞰する。院生が自身の課題を探究できるために、周辺領域を含めた学問の学修を支援し、研究の基礎を構築する。
到達目標	1. 地域で生活(療養)する人々の健康問題や世界的規模で変化する地域の健康問題を俯瞰的に理解することができる。 2. 俯瞰する健康問題について、周辺領域の学問を含めた視野でとらえるための学修をすることができる。(輪読など) 3. 俯瞰する健康問題について、看護学的な視野にたって理論的に構成することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 《研究課題を見出す》 第 1, 2 回：院生の関心事について、関係する先行研究や資料を読み、提示して 討論する。 川村佐和子、酒井昌子、仲村秀子 第 3、4、5 回：在宅看護系の院生の関心事に関して、幅広い学問体系から俯瞰するために、 必要な他学問領域の参考書、資料を輪読する。 酒井昌子、川村佐和子 第 6、7、8 回：公衆衛生看護学系の院生の関心事に関して、幅広い学問体系から俯瞰するた めに、必要な他学問領域の参考書、資料を輪読する 仲村秀子、川村佐和子 第 9、10 回：研究倫理に照らして、それぞれが追求しようとする研究課題と手法に関して陥 りやすい問題を検討する 川村佐和子、仲村秀子、酒井昌子 第 11、12、13 回：院生がイメージし始めた研究課題・研究目標・研究方法について、研究論 文や学術書を参考に検討する 川村佐和子、仲村秀子、酒井昌子 第 14、15 回：院生が描く自身の研究イメージを提示し、それらの研究の理論的な構成を討 論し、研究計画に継続する 川村佐和子、酒井昌子、仲村秀子

学修方法	それぞれの回の内容に従って、自分で調べたことや考えを提示し、プレゼンテーションを行い、討論に参加する。授業成果を、自分の研究計画書として提出する。
評価方法	プレゼンテーション内容（30%）、毎回の討論の参加状況（30%）、自分の研究課題に関するレポート（40%）
課題に対するフィードバック	・授業時間内では、討論の中でフィードバックするが、授業時間外においても個別にフィードバック時間を約束し、これを行う。
指定図書	特になし
参考書	授業中に随時提示する。
事前・事後学修	各回の授業内容にそって、自分の研究課題に対するプレゼンテーション資料(レポート)を作成してくる。
オフィスアワー	川村佐和子（5605 研究室） sawako-k@seirei.ac.jp 酒井昌子（3410 研究室） masako-s@seirei.ac.jp 仲村秀子（1212 研究室） hideko-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。

科目名	地域看護学特講演習
科目責任者	川村 佐和子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得して問題解決を図ることができる。
科目概要	地域看護学、公衆衛生看護学、在宅看護学に基づいた研究を行うために、先行研究や資料を参考に、院生がもつ関心事から研究課題を焦点化する。院生の課題を探索するために最適な研究方法や分析法を見出し、院生は研究のイメージを描き、研究の基礎を構築する。
到達目標	1. 地域で生活(療養)する人々の健康問題や世界的規模で変化する地域の健康問題から、自分の研究課題を見出すことができる。 2. 自分の課題に即した研究方法を見出し、資料を収集することができる。 3. 収集した資料を分析・検討して、現実可能な自分の研究計画を作ることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 《研究課題を見出す》 第 1, 2 回：院生の関心事について、関係する先行研究や資料を読み、提示して 討論する。 <担当教員名> 川村佐和子、酒井昌子、仲村秀子 第 3、4、5 回：在宅看護学系の研究に関して、近年の状況や研究の動向を論じる。 酒井昌子、川村佐和子 第 6、7、8 回：公衆衛生看護学系の研究に関して、近年の状況や研究の動向を論じる。 仲村秀子、川村佐和子 第 9、10 回：研究倫理に照らして、院生それぞれが追求しようとする研究課題に関して陥り やすい問題を検討する 川村佐和子、仲村秀子、酒井昌子 第 11、12、13 回：院生がイメージし始めた研究課題・研究目標・研究方法について、研究論 文や学術書を参考に検討する 川村佐和子、仲村秀子、酒井昌子 第 14、15 回：院生は自身が描く研究イメージを提示し、それらの研究の現実可能性または いかにして現実化させるかを討論し、研究計画に反映する 川村佐和子、酒井昌子、仲村秀子

学修方法	それぞれの回の内容に従って、自分で調べたことや考えを提示し、プレゼンテーションを行い、討論に参加する。授業成果を、自分の研究計画書として提出する。
評価方法	プレゼンテーション内容（30%）、毎回の討論の参加状況（30%）、自分の研究課題に関するレポート（40%）
課題に対するフィードバック	・授業時間内では、討論の中でフィードバックするが、授業時間外においても個別にフィードバック時間を約束し、これを行う。
指定図書	特になし
参考書	授業中に随時提示する。
事前・事後学修	各回の授業内容にそって、自分の研究課題に対するプレゼンテーション資料(レポート)を作成してくる。
オフィスアワー	川村佐和子（5605 研究室） sawako-k@seirei.ac.jp 酒井昌子（3410 研究室） masako-s@seirei.ac.jp 仲村秀子（1212 研究室） hideko-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。

科目名	精神看護学特講
科目責任者	式守晴子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる。
科目概要	人々の精神的な健康課題を学修し、治療的援助技法を活用して精神的健康課題を持つ人々とその家族への支援を実施、評価する能力を修得するとともに、社会や制度の変化に対応した精神的な看護支援の方法を検討し、改善・教育する能力を培う。
到達目標	1. さまざまな精神的な健康課題の特徴を把握し、それに応じた治療的・教育的援助技法を理解し実施および評価する方法を修得する。 2. 精神看護と関連した法制度の変化に応じた看護を提供する場とそこでの問題点を理解する。 3. 脳科学の発達、新薬の開発などによる新たな知見を理解し、それらと従来の精神看護の方法とを統合した看護の展開方法を考察する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回：現在の精神看護の対象者の課題 入院・外来における疾患名の特徴、精神科病床数・平均在院日数の変化等 第 2 回 精神科病棟における看護の課題 1 統合失調症、気分障害への薬物療法の課題と看護のアプローチなど 第 3 回 精神科病棟における看護の課題 2 退院促進に関する制度と看護のアプローチおよび慢性期の人々への看護のアプローチ 第 4 回 外来・ディケア・訪問看護における精神看護の課題、目的、方法等、 第 5 回 地域における社会資源との連携 障害者総合支援法による施設の機能と役割 第 6 回 精神障害者の身体合併症に対する看護の課題 第 7 回 発達障害、高次脳機能障害、認知症等と関連した看護の課題 第 8 回 精神保健福祉法改正に伴う家族の位置づけと家族への支援 第 9 回 機能別病棟の課題 司法病棟、スーパー救急病棟の課題、慢性期療養病棟の行方 第 10 回 地域包括ケアの推進に伴う、精神障害者へのアプローチの位置づけ 第 11 回 精神看護における倫理的課題 第 12 回 地域に暮らす人々のメンタルヘルス 学校、産業での課題、リエゾン看護、災害とメンタルヘルス等 第 13 回から 15 回 学生の研究テーマによる精神看護の課題

学修方法	テーマに関する文献のプレゼンテーション、講義、セミナー形式で授業を行う。
評価方法	ディスカッションへの参加度及びプレゼンテーション（60%）、課題レポート（40%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対してディスカッションし、学生、教員とで共に学び、理解する。さらに提出されたレポートに対してコメントをつけてフィードバックする。
指定図書	なし
参考書	・カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開 第3版（日本語） メディカル・サイエンス・インターナショナル ・中井久雄・山口尚彦、看護のための精神医学、 医学書院 他 学生の研究テーマに応じて参考書を紹介します。
事前・事後学修	授業前に関連資料（事例等）を配布する。各自文献を入手し、該当箇所を読んで授業に参加する。
オフィスアワー	メールにてご希望の日時をご連絡ください。調整します。 アドレス：haruko-s@seirei.ac.jp

科目名	精神看護学特講演習
科目責任者	式守晴子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、新たな知を創造することができる。
科目概要	精神看護学領域の特講およびインタープロフェSSIONAL特講を踏まえて精神看護学領域の高度な専門性を深めるとともに、研究課題を明確化し、課題解決のための理論、方法論、および技法について、実証的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。
科目の到達目標	1. 精神看護学における高度な専門性を探求する。 2. 研究課題の解決に向けた研究方法ならびに実践に応用する方法について検討する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞ 第 1 回 授業の進め方：関心のある研究テーマの紹介とディスカッション 第 2 回 研究課題の明確化に向けた検討：精神看護研究の動向から 第 3 回 文献検討：研究対象に関わる検討 第 4 回 文献検討：主要概念に関わる検討① 第 5 回 文献検討：主要概念に関わる検討② 第 6 回 文献検討：看護介入に関わる検討① 第 7 回 文献検討：看護介入に関わる検討② 第 8 回 研究目的・具体的目標の設定 第 9 回 研究枠組みの構築① 第 10 回 研究枠組みの構築② 第 11 回 研究対象の絞り込み 第 12 回 研究方法の検討① 第 13 回 研究方法の検討② 第 14 回 研究計画書の作成① 第 15 回 研究計画書の作成②

学修方法	自身の研究テーマに沿ってプレゼンテーション、講義、セミナー形式で授業を進める。
評価方法	ディスカッションおよびプレゼンテーション（60%）、課題レポート（40%）
課題に対する フィードバック	提出されたプレゼンテーションに対してディスカッションし、学生、教員とで共に学び、理解する。さらに提出されたレポートに対してコメントをつけてフィードバックする。
指定図書	坂下玲子 看護研究 医学書院 2016
参考書	Lorraine Olszewski Walker 看護における理論構築の方法 医学書院 その他学生の研究テーマに関連した文献、図書を紹介する。
事前・ 事後学修	必要に応じて授業前に関連資料を配布する。各自文献を入手し、該当箇所を読んで授業に参加する。
オフィス アワー	メールにてご希望の日時をご連絡ください。調整します。アドレス： haruko-s@seirei.ac.jp

科目名	慢性看護学特講												
科目責任者	本田 彰子												
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester												
科目の位置付	2. 看護学分野の高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身につけ、問題解決を図ることができる。												
科目概要	慢性看護学で対象とする人々は、病いや障害、老いとともに生きている人々で、疾病の進行や治癒不可能な終末期の状態にある人々を含める。また、看護がかかわるべき状況は、療養や治療に関する情報収集や意思決定、また、地域で暮らす中で支援を受けることに関連した状況である。 本科目は、病をもって地域で療養する人々に提供する看護について、対象や場の捉え方、ケア提供の仕組み、対象者の特性の理解を学習の基盤とし、事例分析や国内外の文献検討を通して、慢性看護の研究課題を精練し、学位論文の取り組みにつなげるものである。												
到達目標	1. 慢性看護の対象となる人々に関連した社会情勢の変化、保健医療福祉の制度変遷、専門看護の成り立ち等の歴史的背景を踏まえ、諸外国との比較検討を含め、我が国の慢性看護の現状と課題を把握する。 2. 自身の関心領域に基づき、慢性看護の課題に関連した理論的基盤を概観説明でき、実践活動構築に向けた探求的取り組みの構想につなげる。 3. 探求的取り組みの拠り所となる理論や実践、及び研究に関する英文献を精読し、学際的国際的な視点で研究に取り組む。												
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</th><th style="text-align: center;">＜担当教員名＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 第 1～3 回 自身の関心課題の明確化、及び学修の進め方 看護の対象となる人々の特徴、及び療養上の課題組むべき課題 （オリエンテーション・自身の関心、及び取り組むべき課題プレゼン） </td><td style="text-align: center;">本田 彰子</td></tr> <tr> <td> 第 4～6 回 慢性看護の課題に関連した理論的基盤の検討 （理論や概念の紹介および活用についてのプレゼン） </td><td style="text-align: center;">本田 彰子</td></tr> <tr> <td> 第 7～9 回 理論や概念に関連した文献や、研究論文等の精読英文献① （精読した英文献の内容の紹介およびディスカッション） </td><td style="text-align: center;">本田 彰子</td></tr> <tr> <td> 第 10～12 回 理論や概念に関連した文献や、研究論文等の精読英文献② （精読した英文献の内容の紹介およびディスカッション） </td><td style="text-align: center;">本田 彰子</td></tr> <tr> <td> 第 13～15 回 自身の関心を探求的取り組みにつなげる 理論的基盤、及び英文献精読からの知見を踏まえた研究課題の整理 </td><td style="text-align: center;">本田 彰子</td></tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1～3 回 自身の関心課題の明確化、及び学修の進め方 看護の対象となる人々の特徴、及び療養上の課題組むべき課題 （オリエンテーション・自身の関心、及び取り組むべき課題プレゼン）	本田 彰子	第 4～6 回 慢性看護の課題に関連した理論的基盤の検討 （理論や概念の紹介および活用についてのプレゼン）	本田 彰子	第 7～9 回 理論や概念に関連した文献や、研究論文等の精読英文献① （精読した英文献の内容の紹介およびディスカッション）	本田 彰子	第 10～12 回 理論や概念に関連した文献や、研究論文等の精読英文献② （精読した英文献の内容の紹介およびディスカッション）	本田 彰子	第 13～15 回 自身の関心を探求的取り組みにつなげる 理論的基盤、及び英文献精読からの知見を踏まえた研究課題の整理	本田 彰子
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞												
第 1～3 回 自身の関心課題の明確化、及び学修の進め方 看護の対象となる人々の特徴、及び療養上の課題組むべき課題 （オリエンテーション・自身の関心、及び取り組むべき課題プレゼン）	本田 彰子												
第 4～6 回 慢性看護の課題に関連した理論的基盤の検討 （理論や概念の紹介および活用についてのプレゼン）	本田 彰子												
第 7～9 回 理論や概念に関連した文献や、研究論文等の精読英文献① （精読した英文献の内容の紹介およびディスカッション）	本田 彰子												
第 10～12 回 理論や概念に関連した文献や、研究論文等の精読英文献② （精読した英文献の内容の紹介およびディスカッション）	本田 彰子												
第 13～15 回 自身の関心を探求的取り組みにつなげる 理論的基盤、及び英文献精読からの知見を踏まえた研究課題の整理	本田 彰子												

学修方法	ゼミナール方式 担当テーマについては、事前に自身の関心、実践教育研究成果等を考慮して決め、文献検索や実践事例のまとめ等により深めた学習内容をプレゼン、ディスカッションする。
評価方法	プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）
課題に対するフィードバック	課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします。また、提出された課題については振り返りの機会を設けます。
指定図書	とくに指定しない。
参考書	1. Afaf I. Meleis , Transition Theory. Springer Publishing Company, 2010. 2. Keri Thomas, Ben Lobo, Advance Care Planning in End of Life Care, Oxford University Press,2011. 3. Moll Andrews, Corinne Squire, Maria Tamboukou,
事前・事後学修	オリエンテーションでの学修の進め方において、担当する課題の決め方、事前学習の方法、及びプレゼンテーションの準備実施について説明するので、それを参考に事前学習をすること。 課題レポートは最終的に自身の関心の精錬し、どのような研究に取り組むかを説明する根拠となるものをまとめる。プレゼンの際に準備した文献や参考資料等を課題レポートに含めてもよい。
オフィスアワー	本田彰子：1217 研究室 E-mail: akiko-ho@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。

科目名	慢性看護学特講演習
科目責任者	本田 彰子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	看護学研究の動向を把握するとともに、周辺学問領域の知見を踏まえ、多角的に物事を捉え分析する思考力をつけ、研究課題の特性に合った研究方法論を広く探求し、自身の研究課題に専門的、実践的、及び自律的に取り組む研究力を身に着ける。
到達目標	1. 看護学、及び周辺学問領域の研究方法について概観説明できる。 2. 研究課題を明確にし、課題解決に向けた適切な研究方法の選択ができ、研究計画を示すことができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員>本田 彰子 第 1 回 オリエンテーション 学修の進め方 第 2～5 回 関連する領域の研究の動向について（文献レビュー） 第 6～8 回 研究方法論の探求（研究方法論の概説、比較検討） 第 9～12 回 研究目的の明文化研究の概念枠組みの検討 第 13～15 回 研究計画書原案作成

学修方法	講義およびセミナー形式で授業を進めます。 授業計画の詳細については、開始時に相談して決定します。
評価方法	提出物：文献レビュー（50%）・研究計画書原案（50%）
課題に対するフィードバック	課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします。また、提出された課題については振り返りの機会を設けます。
指定図書	とくに指定しない。
参考書	1. Frederick J.Wertz, et al, Five Ways of Doing Qualitative Analysis, The Guilford Press,2011.
事前・事後学修	1. 課題レポート：文献レビュー（総説論文としてまとめる） 2. 研究計画原案
オフィスアワー	本田 彰子：1217 研究室 E-mail: akiko-ho@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。

科目名	急性看護学特講
科目責任者	大石ふみ子
単位数他	2単位（30 時間）選択 春
科目の位置付	2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる
科目概要	疾病、外傷、手術、侵襲的治療等によって生命危機状態に直面する患者とその家族の体験を明らかにするとともに、尊厳の尊重、心身の苦痛の緩和、救命救急、集中治療および回復リハビリテーション期に必要とされる支援のあり方を検討し、急性期にある患者と家族を支援するケアモデルの開発にかかわる概念・理論の体系化を目指す。また、急性期看護が提供される場の物理的、人的環境に目を向け、多職種連携・協働のあり方について探求する。
到達目標	1. 生命危機状態にある患者・家族が直面する身体・心理・社会的課題について多角的に探求する。 2. 急性期患者・家族の尊厳と意思決定の尊重について探求する。 3. 急性期患者の苦痛と苦痛緩和の方法について探求する。 4. 急性期看護が提供される場の環境と多職種連携、リーダーシップのあり方とケア提供者の健康について探求する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：急性期看護を要する患者・家族の動向 第 2 回：急性期患者の身体的苦痛と苦痛緩和 第 4 回：急性期患者の家族の体験と支援 第 5 回：急性期患者・家族の権利擁護と意思決定支援 第 6 回：急性期看護の主要概念（1）ストレスと危機 第 7 回：急性期看護の主要概念（2）コントロールとパワー 第 8 回：急性期看護の主要概念（3）悲嘆とトラウマ 第 9 回：急性期看護の主要概念（4）急性期看護の卓越性 第 10 回：急性期看護の物理的環境と安全管理 第 11 回：急性期看護の人的環境と多職種連携 第 12 回：急性期看護におけるケア提供者へのケア 第 13 回：急性期看護における Synergy Model 第 14 回：急性期看護学研究の動向と課題（1）文献講読 第 15 回：急性期看護学研究の動向と課題（2）文献講読

学修方法	講義および学生のプレゼンテーションをもとにしたセミナー形式で進めます。
評価方法	授業資料の準備とプレゼンテーション（60%）、課題レポート（40%）
課題に対するフィードバック	クラスの前までにプレゼンテーションの準備を行い、教員より課題に対する指導を受けてからクラスに臨む。クラスでのディスカッションにおいて課題をより深める。
指定図書	とくに指定しない。
参考書	1. Benner P.他(1989) The Primacy of Caring. Addison-Wesley Publishing. 2. Benner P.他(1996) Expertise in Nursing Practice. Springer Publishing. 3. Hardin S.R.他(2005) Synergy for Clinical Excellence. American Association of Critical-Care Nurses その他、講義の中で適宜紹介します。
事前・事後学修	事前の話し合いで毎時間の目標を設定します。目標に従って文献検討、経験事例を整理してプレゼンテーション資料を作成してください。必要な学修時間は、指導教員と相談するが、面談の間隔によって異なる。
オフィス・アワー	大石ふみ子（看護学研究科）1219 研究室、E-mail : fumiko-o@seirei.ac.jp 毎週火曜日 VI・VII限

科目名	急性看護学特講演習
科目責任者	大石ふみ子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、新たな知を創造することができる。
科目概要	急性期看護学特論およびインタープロフェSSIONALワーク特論等をふまえて、慢性・急性期看護学領域の高度な専門性を深めるとともに、研究課題を明確化し、課題解決のための理論や方法論、技法について、実証的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。
到達目標	1. 急性期看護学における高度な専門性を探究する。 2. 研究課題に解決に向けた研究方法ならびに実践に応用する方法について検討する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：研究課題の設定に向けた検討：急性期看護の動向から 第 2 回：研究課題の設定に向けた検討：急性期看護学研究の動向から 第 3 回：文献検討：研究対象の選定についての検討 第 4 回：文献検討：使用する概念についての検討（1）概念の抽出 第 5 回：文献検討：使用する概念についての検討（2）概念の統合 第 6 回：文献検討：看護介入方法についての検討（1）行動変容モデル 第 7 回：文献検討：看護介入方法についての検討（2）ストレスコーピングモデル 第 8 回：自己の研究課題、研究目標の設定 第 9 回：研究枠組みの構築（1）研究枠組みについて 第 10 回：研究枠組みの構築（2）研究の妥当性の検証 第 11 回：研究方法の検討：データ収集方法 第 12 回：研究方法の検討：分析方法 第 13 回：研究に必要とされる倫理的配慮 第 14 回：研究計画案の検討（1）対象の選定 第 15 回：研究計画案の検討（2）分析方法等の検討

学修方法	講義および学生のプレゼンテーションをもとにしたセミナー形式で進めます。これまでの学修成果を統合して、研究計画書の作成に向けて準備します。
評価方法	資料の準備とプレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）
課題に対するフィードバック	クラスの前までにプレゼンテーションの準備を行い、教員より課題に対する指導を受けてからクラスに臨む。クラスでのディスカッションにおいて課題をより深める。
指定図書	なし
参考書	J. Fawsett 著：フォーセット看護理論の分析と評価、医学書院 その他、講義の中で適宜紹介します。
事前・事後学修	研究課題に関係するデータ収集方法、対象の選定など研究法の復習をしておいてください。必要な学修時間は、指導教員との面談の間隔によって異なる。
オフィス・アワー	大石ふみ子（看護学研究科）1219 研究室、E-mail : fumiko-o@seirei.ac.jp 毎週火曜日 VI・VII限

科目名	がん看護学特講
科目責任者	大石ふみ子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	DP2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる。
科目概要	がん患者・家族のもつ複雑な問題を多角的に探求し、QOLの向上にむけた問題解決のための理論・方法論、及び多職種による連携・協働について探求する。
到達目標	1. がん患者・家族のもつ複雑な問題を多角的に探求する。 2. がん患者・家族のもつ様々な問題を解決し、QOLを向上させるための理論や方法論・技法について、広範な学問分野・文献から、また国際的視点に立って検討する。 3. がん患者・家族を中心とした多職種による連携・協働のあり方を探求する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> [がん患者・家族の問題の多角的探求] 第1回：がん患者のトータルペイン 第2回：身体・心理・社会・霊的・倫理的問題の分析－(1) 第3回：身体・心理・社会・霊的・倫理的問題の分析－(2) 第4回：倫理的問題の総合的検討 第5回：家族の問題の検討 大石ふみ子 大石ふみ子 大石ふみ子 大石ふみ子 大石ふみ子 [がん患者・家族の看護介入方法の体系化の探求] 第6回：臨床判断のプロセス 第7回：生理学的アプローチ 第8回：心理・教育学的アプローチ 第9回：認知・行動的アプローチ 第10回：個別アプローチとグループアプローチ 大石ふみ子 大山 末美 大山 末美 大石ふみ子 大石ふみ子 [がん患者・家族を中心とした多職種連携・協働の探求] 第11回：がん医療におけるチームアプローチ 第12回：がん医療チームにおける多職種の役割・機能 第13回：がん患者のトータルペインと多職種連携・協働の実践と評価－(1) 第14回：がん患者のトータルペインと多職種連携・協働の実践と評価－(2) 第15回：がん医療における多職種連携・協働のまとめ 大石ふみ子 大石ふみ子 森田 達也 森田 達也 大石ふみ子 ※日程は相談のうえ、決定する。

学修方法	講義、プレゼンテーション、討議により授業を進める。
評価方法	・各自の課題達成状況（60%） ・複雑な問題をもつがん患者・家族の事例分析とアプローチについてのレポート（40%）
課題に対するフィードバック	個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。
指定図書	『OPTIM Report 2011 緩和ケア普及のための地域プロジェクト報告書』厚生労働科学研究補助金 第3次対がん総合戦略研究事業「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班 (2013). http://gankanwa.umin.jp/report.html (森田講師による授業用配布資料)
参考図書	『ソーシャルキャピタル入門』稲葉陽二 (2011), 中公新書 その他、授業中に随時提示する。
事前・事後学修	授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する。 授業後に討議をふまえて授業内容について復習する。
オフィスアワー	科目責任者:大石ふみ子(看護学研究科) 1219 研究室 メールアドレス:fumiko-o@seirei.ac.jp 大山末美 1213 研究室 suemi-o@seirei.ac.jp 水曜日 12:00～13:00

科目名	がん看護学特講演習												
科目責任者	大石ふみ子												
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋												
科目の位置付	DP 3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、新たな知を創造することができる。												
科目概要	がん看護学特講をふまえて、がん看護学領域の高度な専門性を深めるとともに、研究課題を明確化し、課題解決のための理論や方法論、技法について、実証的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。												
到達目標	1. がん看護学における高度な専門性を探究する。 2. がん患者、家族のQOLを向上させるための斬新な研究課題を明確化する。 3. 研究課題解決に向けた研究方法ならびに実践に応用する方法を検討する。												
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th>＜授業内容・テーマ等＞</th><th>＜担当教員＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1-2 回： がん看護学特講で深めた学修内容及び自己の経験から課題を見出し、文献検討を行い、検討・討議する。</td><td>大石ふみ子 大山 末美</td></tr> <tr> <td>第 3 - 6 回： 課題に関して、実践の場（外来または病棟等）の実状を見聞し、理論との融合について検討・討議する。</td><td>大石ふみ子 大山 末美</td></tr> <tr> <td>第 7-10 回： 課題に関して、多職種との連携と協働の実状を見聞し、課題解決のための連携協働のあり方について検討・討議する。</td><td>大石ふみ子 大山 末美</td></tr> <tr> <td>第 11-13 回： 広くフィールドで収集した資料やデータに基づいて、課題解決のための方法や実践に応用する方法について検討・討議する。</td><td>大石ふみ子 大山 末美</td></tr> <tr> <td>第 14-15 回： 課題解決のための方法や実践に応用する方法について明らかにする。</td><td>大石ふみ子 大山 末美</td></tr> </tbody> </table> ※日程は相談のうえ、決定する。	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員＞	第 1-2 回： がん看護学特講で深めた学修内容及び自己の経験から課題を見出し、文献検討を行い、検討・討議する。	大石ふみ子 大山 末美	第 3 - 6 回： 課題に関して、実践の場（外来または病棟等）の実状を見聞し、理論との融合について検討・討議する。	大石ふみ子 大山 末美	第 7-10 回： 課題に関して、多職種との連携と協働の実状を見聞し、課題解決のための連携協働のあり方について検討・討議する。	大石ふみ子 大山 末美	第 11-13 回： 広くフィールドで収集した資料やデータに基づいて、課題解決のための方法や実践に応用する方法について検討・討議する。	大石ふみ子 大山 末美	第 14-15 回： 課題解決のための方法や実践に応用する方法について明らかにする。	大石ふみ子 大山 末美
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員＞												
第 1-2 回： がん看護学特講で深めた学修内容及び自己の経験から課題を見出し、文献検討を行い、検討・討議する。	大石ふみ子 大山 末美												
第 3 - 6 回： 課題に関して、実践の場（外来または病棟等）の実状を見聞し、理論との融合について検討・討議する。	大石ふみ子 大山 末美												
第 7-10 回： 課題に関して、多職種との連携と協働の実状を見聞し、課題解決のための連携協働のあり方について検討・討議する。	大石ふみ子 大山 末美												
第 11-13 回： 広くフィールドで収集した資料やデータに基づいて、課題解決のための方法や実践に応用する方法について検討・討議する。	大石ふみ子 大山 末美												
第 14-15 回： 課題解決のための方法や実践に応用する方法について明らかにする。	大石ふみ子 大山 末美												

学修方法	プレゼンテーション、討議、個別指導により授業を行う。
評価方法	・がん看護領域における専門性についてのレポート（40%） ・がん患者・家族のQOLを向上させるための課題の解決に向けた方法及び実践に応用する方法についてのレポート（60%）
課題に対するフィードバック	個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。
指定図書	特に指定しない。
参考図書	授業中に随時提示する。
事前・事後学修	授業前に、がん看護学特講及び保健科学研究方法特講等の学修内容をふまえてプレゼンテーション・討議用の資料を作成する。 授業後に討議内容をふまえて復習する。
オフィスアワー	科目責任者：大石ふみ子（看護学研究科）1219 研究室 メールアドレス：fumiko-o@seirei.ac.jp 大山末美 1213 suemi-o@seirei.ac.jp 水曜日 12:00～13:00

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学特講
科目責任者	藤本 栄子、久保田 君枝
単位数他	2 単位 (30 時間) 春
科目の位置付	2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる
科目概要	妊娠・分娩・育児期の女性および胎児・新生児とその家族の健康課題、ならびに低出生体重児、高齢出産等の健康問題を身体・心理・社会ならびに文化的に捉え多角的に探求し、女性や子ども、家族が自らの力を最大限に発揮して適応できるよう支援するための諸理論や方法論、技法について学修する。さらに、妊孕世代の健康意識と食生活の課題について、栄養学的視点を包含して、周産期にある女性の健康と次世代育成についての緒理論や方法論について学修する。子育て世代包括支援センターの法制化に伴い、医療者間および関係諸期間の連携・協働をふまえた看護専門職の役割論を追究する。
到達目標	1. 妊娠・分娩・育児期の女性および胎児・新生児とその家族の健康課題、ならびに低出生体重児、高齢出産等の健康問題を身体・心理・社会ならびに文化的に捉え多角的に探求する。 2. 関心のあるテーマに関する研究の動向を把握し、健康問題の特定ならびに看護援助の方法を探究する。 3. 子育て世代包括支援センターの法制化に伴い、医療者間および関係諸期間の連携・協働をふまえた看護専門職の役割論を追究する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回：オリエンテーション、関心をもつ研究テーマの紹介と討議 第2回：リプロダクティブヘルスに関わる理論と概念 （親子関係論・愛着理論） 藤本栄子 第3回：リプロダクティブヘルスに関わる理論と概念 （リプロダクティブヘルス・ライツ） 藤本栄子 第4回：リプロダクティブヘルスに関わる理論と概念 （リプロダクティブヘルス・ライツ） 久保田君枝 第5回：リプロダクティブヘルスおよびウィメンズヘルスに関するトピックス （養育困難） 久保田君枝 第6回：リプロダクティブヘルスおよびウィメンズヘルスに関するトピックス （家族エンパワーメント） 藤本栄子 第7回：リプロダクティブヘルスおよびウィメンズヘルスに関するトピックス （女性の健康と食生活） 久保田君枝 第8回：関心のあるテーマに関する研究の動向 久保田君枝・藤本栄子 第9回：関心のあるテーマに関する研究の動向 久保田君枝・藤本栄子 第10回：セルフケア理論と看護援助 久保田君枝・藤本栄子 第11回：医療者間および関係諸機関のパートナーシップを基盤とした連携・協働 久保田君枝・藤本栄子 第12回：セルフケア理論と看護援助 久保田君枝・藤本栄子 第13回：関心のあるテーマに関する研究の動向 久保田君枝・藤本栄子 第14回：課題の発表 久保田君枝・藤本栄子 第15回：まとめ 久保田君枝・藤本栄子

学修方法	「講義」「グループワーク」「討論」「発表」
評価方法	プレゼンテーション 50%、最終レポート 50%
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント
指定図書	特に指定しない。
参考書	講義中に紹介
事前・事後学修	テーマに基づき、各自プレゼンテーションの準備をしておいてください。 第1回のオリエンテーション時に説明をする予定です。
オフィスアワー	藤 本：土曜日の午後 メールアドレス eiko-f@seirei.ac.jp 久保田：金曜日の午後 メールアドレス kimie-k@seirei.ac.jp

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学特講演習	
科目責任者	藤本 栄子、久保田 君枝	
単位数他	1 単位（30 時間） 選択 秋	
科目の位置付	3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、新たな知を創造することができる。	
科目概要	リプロダクティブ・ヘルス看護学特講およびインタープロフェSSIONALワーク特講をふまえて、本領域の高度な専門性を深めるとともに、研究課題を明確化し、課題解決のための理論や方法論、技法について、実証的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。	
到達目標	1. 関心のあるテーマに関する概念枠組みや研究方法について検討する。	
授業計画	<担当教員名> 久保田君枝、藤本栄子	
	<授業内容・テーマ等>	
	第1回：オリエンテーション、関心をもつ研究テーマの紹介と討議	久保田君枝・藤本栄子
	第2回：関心のあるテーマに関する文献の統合	久保田君枝・藤本栄子
	第3回：関心のあるテーマに関する目的の明確化	久保田君枝・藤本栄子
	第4回：関心のあるテーマに関する目的の明確化	久保田君枝・藤本栄子
	第5回：関心のあるテーマに関する主要概念の検討	久保田君枝・藤本栄子
	第6回：関心のあるテーマに関する主要概念の検討	久保田君枝・藤本栄子
	第7回：関心のあるテーマに関する主要概念の検討	久保田君枝・藤本栄子
	第8回：関心のあるテーマに関する主要概念の検討	久保田君枝・藤本栄子
	第9回：関心のあるテーマに関する概念枠組みの検討	久保田君枝・藤本栄子
	第10回：関心のあるテーマに関する概念枠組みの検討	久保田君枝・藤本栄子
	第11回：関心のあるテーマに関する概念枠組みの検討	久保田君枝・藤本栄子
	第12回：関心のあるテーマに関する研究方法の検討	久保田君枝・藤本栄子
	第13回：関心のあるテーマに関する研究方法の検討	久保田君枝・藤本栄子
第14回：関心のあるテーマに関する研究方法の検討	久保田君枝・藤本栄子	
第15回：研究計画書の作成	久保田君枝・藤本栄子	

学修方法	「講義」「グループワーク」「討論」「発表」
評価方法	プレゼンテーション 50%、最終レポート 50%
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント
指定図書	特に指定しない。
参考書	講義中に紹介
事前・事後学修	テーマに基づき、各自プレゼンテーションの準備をしておいてください。
オフィスアワー	藤本 栄子：土曜日の午後 メールアドレス eiko-f@seirei.ac.jp 久保田君枝：金曜日の午後 メールアドレス kimie-k@seirei.ac.jp

科目名	小児看護学特講
科目責任者	市江 和子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2)エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる
科目概要	子どもと親・家族を対象として、ライフステージにおける健康問題や倫理的問題とともに、子どもを取り巻く環境に関して理解を深める。さらに、小児看護学の理論的背景を究明し、小児と家族に対する看護の主要な問題と研究方法について探求する。
到達目標	1. 小児看護学の主要な理論および概念について理解し、研究への適用を考察する。 2. 主要な研究デザインと研究手法について理解し、小児看護学研究への適用を考察できる 3. 子どもと親・家族のもつ問題を多角的に探究する。 4. 子どもと親・家族を支える各専門職の連携・協働を検討し、課題および対応策を探求する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション、関心をもつ研究テーマの紹介と討議 第2回：小児看護学にかかわる主要概念の検討（1）セルフケア概念 第3回：小児看護学にかかわる主要概念の検討（2）ストレスコーピング理論 第4回：小児看護学にかかわる主要概念の検討（3）ソーシャルサポート 第5回：健康問題をもつ子どもと親・家族の支援方法に関する研究の動向 第6回：障がいをもつ子どもと親・家族の支援方法に関する研究の動向 第7回：量的研究方法を用いた博士論文の講読と理論的枠組み 第8回：質的研究方法を用いた博士論文の講読と理論的枠組み 第9回：現代における子どもと家族を取り巻く問題 第10回：子どもと親・家族の抱える問題の検討（1）健康障害児と親・家族の問題 第11回：子どもと親・家族の抱える問題の検討（2）障がいをもつ児と親・家族の問題 第12回：子育て支援のあり方 第13回：子どもの病気と家族支援 第14回：研究テーマに関する文献レビュー 第15回：まとめ

学修方法	講義、討論、発表
評価方法	課題レポート 50%、授業に対する取り組みの姿勢 50%を総合的に判断する。
課題に対するフィードバック	授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。
指定図書	特に指定しない。必要な資料は配布する。
参考書	授業中に随時紹介する。
事前・事後学修	関心あるテーマについて事前学修のレポートを作成する。
オフィスアワー	金曜日午前（1712 研究室） e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp

科目名	小児看護学特講演習
科目責任者	市江 和子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、新たな知を創造することができる。
科目概要	子どもと親・家族の健康をめぐる研究課題を明らかにし、成長・発達段階に基づく理論と既存の研究知見をふまえた上で、子どもと親・家族に内在する力を引き出す看護に関する研究方法を明確にする。小児看護学領域の高度な専門性を深めるとともに、課題解決のための理論や方法論、技法について、実践的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。
到達目標	1. 小児看護学領域における高度な専門性を探求する。 2. 特講で選択したそれぞれのテーマと、その中で明らかにしたい内容にもっとも適する研究方法論を選択するための知識と方法を身につける。 3. 研究課題の解決に向けた研究方法ならびに実践に応用する方法について検討する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 各自のテーマに沿って、論文抄読を行い、研究計画を作成して研究を行う。 第1-2回： 文献検討 第3-4回： 研究テーマに応じた文献検討 第5-6回： 研究デザイン、研究フィールド、研究対象の検討 第7-10回： 予備研究の実施：調査、データ収集・分析 第11-12回： データ収集・分析 第13-14回： 研究のまとめ 第15回： レポート作成

学修方法	講義、演習、討論、発表
評価方法	小児看護学領域における専門性についてのレポート（50%）、参加度とプレゼンテーション（50%）を含め、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。
指定図書	特に指定しない。必要な資料は配布する。 授業中に随時紹介する。
参考書	授業中に随時紹介する。
事前・事後学修	関心あるテーマについての事前学修のレポートを作成する。
オフィスアワー	金曜日午前（1712 研究室） e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp

科目名	看護学特別研究	
研究指導教員	鶴田恵子、川村佐和子、酒井昌子、式守晴子、本田彰子、大石ふみ子、藤本栄子、久保田君枝、市江和子	
研究指導補助教員	安田智洋、檜原理恵、仲村秀子、西川浩昭、豊島由樹子、熊澤武志、宮谷恵 佐久間佐織、大山末美	
単位数他	6 単位（180 時間） 選択 通年	
科目の 位置づけ	（4）看護学分野の専攻領域の研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 （5）研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。 （7）学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と交流ができる。	
科目概要	これまでの学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。 研究指導は、研究指導教員を中心に、看護学分野の複数教員が協力しながら行う。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う。 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。	
授業計画 および 評価方法	＜授業内容・テーマ等＞ 1 年次春semester：これまでに学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	＜評価方法＞ 討 論 参 加 度 (30%) 及び課 題の焦点化達 成度 (70%)
	1 年次秋semester：研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。	発 表 態 度 (30%) 発表内 容及び研究計 画の完成度 (70%)
	2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。	研究計画の倫 理的配慮の精 度 (40%) 研究 計画書の完成 度 (60%)
	2 年次秋semester：適宜、指導を受けながら、データ収集及び副論文の作成、学会発表を行う。	データ収集の 適切性 (70%) 副論文の作成、 学会発表の達 成度 (30%)
	3 年次春semester：適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する	データ分析の 論理性・技法の 適切性 (100%)
	3 年次秋semester：第三者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。	論文の完成度 (70%) 第三者の 評価による 修正の適切性 (30%)

学修方法	発表、ディスカッション、個別指導、講義
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業で、発表内容に対するコメントを提示する。 レポートは、評価後にコメントを記入し返却する。
指定図書	なし
参考書	授業時に随時連絡
事前学習・課題等	随時指定
オフィスアワー	初回授業時に提示